

森見登美彦の言葉選びとその魅力

国語班：奥野 天太 西口 柚太 重留 亜衣

要約

日本の作家である森見登美彦の、どこが独特であるかを知るため、彼の著書の中での単語の登場数を数えた。研究の結果、「四畳半」をはじめとした京都での森見の学生生活に関連のある単語が多く登場した。森見は京都に長年住んでいたことから、彼は自身の体験をもとに、しかしそれを限りなく膨らませて本を書いていると思われる。このことから、森見の魅力は彼の類まれなる想像力であると思われる。

Abstract

We researched Morimi Tomihiko who is a famous Japanese writer, because we wanted to know why his world is so unique.

We counted the number of the words which we picked up.

The research shows that a lot of words about Kyoto reveal in his books such as 'Yojo-Han' .

Morimi had lived in Kyoto may be the evidence as the motifs.

This study concludes that his fascination is his exaggerated expression and his imagination.

1. 序論

私たちは、森見の著書が持つユニークな世界観を生み出している文章の、何が異彩を放っているかという点に興味を持ち、そこで、森見の著作に登場する特徴的な語句が、読者を惹きつけるのではないかと思い、次の方法で調査をした。

2. 研究手法

最初は自分たちの森見のイメージをもとに単語をピックアップしていたが、客観性が足りないことから、別の観点からピックアップしようと考え、河出書房新社編集部が編集・出版した「総特集 森見登美彦：作家は机上で冒険する!」をもとに幾つかの単語をピックアップした。

- ① 「総特集 森見登美彦：作家は机上で冒険する!」（河出書房新社）に付属の事典を参考に、幾つかの単語をピックアップした。（猫ラーメン、鍋、（偽）電気ブラン、狸、天狗、金魚、叡山電車、閨房調査団、詭弁論部、桃色……、男汁、なむなむ、宵山、鴨川デルタ、達磨、四畳半）

- ② 森見が作家としてデビューしてから最初の十年間(2003～2013年)に出版された小説(長編11冊・短編2編、下表)を研究対象とし、前項で選んだ語句の登場回数を調べる。

太陽の塔	宵山万華鏡	恋文の技術
夜は短し歩けよ乙女	聖なる怠け者の冒険	有頂天家族
【新釈】 走れメロス 他四篇	四畳半王国見聞録	金魚鉢をのぞく子ども(短編)
きつねのはなし	ペンギン・ハイウェイ	大草原の小さな家(短編)
四畳半神話大系		

- ③ 冊数に対するその語句の使用回数を合計した。

3. 結果

「四畳半」という単語が一番多く212個、続いて「狸」が168個、「達磨」が86個となった。(右表)

四畳半	212
狸	168
達磨	86
鍋	45
詭弁論部	55
(偽)電気ブラン	36
猫ラーメン	32
天狗	32
鯉	3
叡山電車	1
閨房調査団	34
桃色……	37
男汁	12
なむなむ	15
宵山	24
鴨川デルタ	27

4. 考察

- ① 「四畳半」という単語について

森見はエッセイの中で、「もし私が四畳半に暮らしていなかったら「太陽の塔」はなく、「四畳半神話大系」もなく、ひいては「夜は短し歩けよ乙女」もない。どう考えてみても、四畳半以外の突破口が我が人生に用意されていたとは思えない。」と語っており、「四畳半」という単語は森見にとって非常に重要なものであるということが考えられる。

- ② 「猫ラーメン」、「叡山電車」、「宵山」、「鴨川デルタ」といった京都に存在、モデルが存在する単語について

「小説を書く際に関して言えば、自分の見た京都から妄想したことばかりを書いているわけですから。それは僕の京都であって、京都を客観的に表現することはできません」とも語っており、これにより、自身が見た「京都」を主観的に膨らませてそれを小説化しているということが考えられる。

5. 結論

調査の結果やエッセイから、森見が過去に四畳半で生活していた経験をもとにして小説をいくつか書いており、本人にとって「四畳半」が小説を書く上で切っても切り離せない重要な単語になっているということが分かった。

このことから、森見の書く小説の魅力の一つである独特の世界観は、森見が主観的に見た「京

都」を舞台に、限りなく膨らませた自身の経験を織り交ぜることで構成されているのではないかと考えた。

6. 参考文献

- 森見登美彦(2003)「太陽の塔」新潮社)
(2012)「ペンギン・ハイウェイ」角川文庫
(2008)「四畳半神話大系」角川文庫
(2013)「四畳半王国見聞録」新潮文庫
(2009)「きつねのはなし」新潮文庫
(2013)「聖なる怠け者の冒険」朝日新聞出版
(2006)「夜は短し歩けよ乙女」角川書店
(2017)「太陽と乙女」新潮社
(2009)「【新釈】走れメロス」祥伝社文庫
(2010)「有頂天家族」幻冬舎文庫
(2011)「恋文の技術」ポプラ文庫
(2012)「宵山万華鏡」集英社文庫
河出書房新社編集部(2019)「文藝別冊 総特集 森見登美彦:作家は机上で冒険する」河出書房新社